

ときめき人

Tokimeki bito



マジックで 笑いと驚きと 感動を

迫町・小友出身

マジシャンハムスターさん

(本名 星 公さん)

1973年生まれ 血液型/B型



マジシャンハムスター
Instagram



目の前で起こるマジックとおやじギャグの数々で観客は笑顔に。5月26日(日)にはイオンタウン佐沼でショーを開催。

Profile

1988年新田中学校を卒業。市外の高校に進学した後、山形県に移住。保育園からいきいきサロンまで、場所を問わず年間200件以上のショーを行う。

「地方にはマジックを直接見たことがない人がたくさんいます。そんな人たちが、マジックを体感して驚いたり喜んでくれたりすることが、一番のやりがいなんです」と、はにかみながら語る。

マジシャンハムスターさんとマジックの出会いは、今から20年前の社会人の時。仕事やコミュニケーションに生かしたいと、マジックを学ぶ会に参加し、「これは自分に合っている」と直感。10年後、前職を辞めてマジシャンとして本格的に活動することを決意した。

最初は、飲食店の客席などでお客さんと対面で披露するマジックを主としていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、テーブルマジックはご法度に。「このままではだめだ」と、屋外でもで

きるマジックを練習し、マルシェなどのイベントにも飛び込みで出演。その結果、見た人の口コミで出演の依頼が来るようになり、活動の幅が大きく広がった。

地元で開かれた同窓会をきっかけに、昨年の秋に初めて登米市でマジックを披露。「生まれ育った故郷に恩返ししたい」と、市内での公演数を増やして活動するようになった。

「マジックにはタネや仕掛けがあるけれど、それ以上に大事な『お客様の笑顔』がある。だからマジックはやめられない」。おやじギャグを交えながら、本格的なマジックを披露する、親しみやすい「おじシャン」は、今日もどこかで驚きと笑顔を生み出している。

編集後記

▼可燃ごみについて取材。

4月からプラスチック製品が資源ごみとして回収されるようになりました。私の家にはこどもたちが幼い頃に使っていた大量のおもちゃが。思い出が消えるように寂しいと言いつつ置いておいたものが、ついに重い腰を上げるときが来たようです。(高橋)

▼東北新生園内には市道が通っています。全国のハンセン治療所でこのように開かれている施設はまれで、昔から地域交流が盛んだったそう。現在、入所者の平均年齢は約90歳。取材を通し、この歴史と教訓を後世に伝えることの大切さを強く感じました。(渡邊)

▼ときめき人を取材。東北風土マラソン&フェスティバルで披露されたショーとテーブルマジックを拝見しました。最初は「え〜?」と構えるお客さんも、不思議な現象の数々に「え〜!!」と驚き、笑顔に。マジックで心を通わせ、楽しい1日の思い出に彩りを添えるプロの技に感服しました。(添田)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>

